

# 令和2年度 ちぐさこども園 学校関係者評価委員会報告

日時： 令和3年 3 月 29 日(月) 14:00～14:30

場所： ちぐさこども園保育室

出席者： 青木忠昭(法人役員)、飯島千明(同)、星川嘉一郎(元市議)、小熊あみ子(元小学校校長)、天野純一(住職)、井熊基之(保護者代表) ※順不同、敬称略

## 1. 本園の教育・保育目標

「意欲」・・・ 面白いことや楽しいことを十分に体験を通して、「～したい」につながるエネルギーを心身ともに培う

「感性」・・・ 様々な体験を通して、感じる心・表現する喜びを味わい、同時に知的な感覚を磨く

「思いやり」・・・ 他者と共にする生活や遊びを通して、友だちと過ごす楽しさや難しさを味わいながら、他者を慮る心や態度を培う。

## 2. 本年度自己評価と学校関係者評価 本年度スローガン『ひとりひとり』

項目		自己評価		学校関係者評価(意見)
本年度 重点	① 子どもの主体性を尊重する保育	B+	写真等を活用して、子どもをみる視点を園内で磨きあった。保育課程への反映はこれから。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ちぐさに入れて良かった」との保護者の声が多数ある。</li> <li>・お題目(抽象的)になりやすいテーマ“主体性”に対して、写真の活用等、具体的なアプローチで取り組んでいる点が良い。</li> </ul>
	② 特別支援教育の充実	A	園内研修での話し合いや外部専門家の知見を通して、職員全体の理解が深まり、実践に活かした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちぐさの先生は良く学んでいる。</li> <li>・障がい児がクラスで居心地良さそうに過ごしていたのが印象的だった。</li> <li>・特別支援が充実は、通常の保育の充実にもつながる。</li> </ul>
	③ コロナ禍での保育の見直し	A	コロナに柔軟に対応する一方、コロナを契機に従来の保育の見直しにチャレンジした。(している)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との情報共有に力を入れたのは、未知の事態へのリスク管理として適切。</li> <li>・コロナを“言い訳”にしない姿勢が素晴らしい。</li> <li>・コロナで保育が良くなった感覚は保護者(外部)にはわかりづらいかもしれない。</li> </ul>
総合		A	年間テーマの「ひとりひとり」に沿って、ドキュメンテーション(新しい記録方法)の導入、特別支援の充実を園全体で進めることができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナで大変な中、よくやっている。</li> <li>・ちぐさの職員は、挨拶等、基本的なことを皆で共有して実践している。当たり前かもしれないが、大切なことなので継続してほしい。</li> <li>・特別支援の充実は、「多様性重視」の時代にあっている。</li> </ul>